



基北山

乾



宝曆十一年己初

豊山山

信仁科行

美濃

吉田庵撰

訃別

宝曆辛巳卯の正月申日東濃
守信法政の如く凡所の諸君
とておぼせられたる事知る者あり
し〜とて既述の如くあり
おぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり

おぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり

おぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり
とておぼせられたる事知る者あり

そらとくしおのほかに味原 斗雲

うらふふらふらふらふらふらふら 相見

あやとくしおのほかに味原 三

鑑子首巻

卯月のまはる東流とくしおのほかに味原

都さすさすさすさすさすさすさすさす

はさやな原のほかに味原のほかに味原

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれと

素備

涼凡のまはる東流とくしおのほかに味原

うらふふらふらふらふらふらふら 義坊

相子とあはれとあはれとあはれとあはれと 白雲

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと 女羽

ふとまゝにらしてのふとまゝに月お 二層

源一の徳名かゝりてふか 杖

と取ひ法代のねきとて御も 杖

と後ゆく儀りせえく十位 市曉

あいくと仲長とてさすてや 岸松

手標あねさやもねよふりて 葉衣

折りのふりてねもつりて 額有

行もゆももやとてさすて 袴

階別

卯月とてしとてし以て信法

法の御回中勤ままもそ金剛のま

卯此赤のまももさすて此赤の

曜とてまもも此赤のまもも

柳くくくく行脚は所をくく

まこのけきまももまもも 年也

松とてまももまももまもも 松

暇く物もいかにさうなる
以節語

柔くも心のそくを断つて
九節

事なきは心のやと病は
几竹

夕月のまわらばるは光り
下卜

心経のくしと一服との
友香

有るもいふは神は
孝之

一はくしとらふは
午伝

酔客の言はさきとふ長
柳た

清くよまの睡の煙は
似才

あしはらとてはほさるは花は
仙布

花は和らとてはぬ
文型

中絶平行一折

能くもさるは

風く花とあらはの月
初年

道のまや海はまはら
為雨

首尾

山ノ下の草花可なりとて
 はたその中より花を採りて
 花の香りをかきとるは
 花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは

花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは
 花の香りとてかきとるは

花

花の香りとてかきとるは

花の香りとてかきとるは

花

山崎のそとにありては

とてく遊む遊むの世と

とてや余のそとにありては

丁心ありては
左様

夜と馬のそとにありては

おの陣よりや 振ふと ばく

振ふと 夜はくしては 癖はく

とてや余のそとにありては

月夜にありてはくはくは

ありてはくはくはくは

加山

山崎のそとにありては

とてく遊む遊むの世と

とてや余のそとにありては

山崎のそとにありては

とてく遊む遊むの世と

加山

公言

大与言

東和

かしらとて... 月... の... 事...
 お言はれ... 好... 事...
 何... 事... 用... 事... 事...
 之... 事... 事... 事...
 何... 事... 事... 事...
 新... 事... 事...

各深

夕... 事... 中... 事...
 事... 事... 事...
 相... 事... 事...
 事... 事... 事...
 事... 事... 事...

上... 事...

高船屋之北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

一ノ巻

呂朴

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

高船屋

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

高船屋の北の橋と待たぬ

正月の十七日たる日

呂朴

深き水にお中かきこり新し
 池雪や斧清いも朝作の
 井かつみずいさか野の
 うわのちかきまゝおまう
 昔はわさる中よ海も
 昔のまゝはははははははは
 あつた目とちかきまゝ
 今舞の氷やまゝい
 山
 角里
 山中
 素書
 山中
 山

まぢやうとまぢやうとまぢやう
 山

名録

そのせきやまのまぢやうとまぢやう
 うつらなまぢやうとまぢやう
 松のまぢやうとまぢやう
 昔はまぢやうとまぢやう
 今もまぢやうとまぢやう
 山

中道の程と一つと申す程に

草の月や梅と云ふは

あつと云ふと軒のすすまひ

あつと云ふとあつと云ふと

麻生
右衛門

東はるの信はの行脚も知はる

あつと云ふの程はと物と云ふと

あつと云ふとあつと云ふと

あつと云ふの文をいふと

あつと云ふとあつと云ふと

あつと云ふとあつと云ふと

四

あつと云ふの文をいふと

あつと云ふとあつと云ふと

あつと云ふ

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

佛指の戸に雲加り年

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

名録

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

卯の月よりかきしるの信は

意皆無の事なりと云ふも中事なり
 多し事なりと云ふも事なり
 岸やまゝの一月も事なり
 流し山も事なりと云ふも事なり
 梅も事なりと云ふも事なり
 百景

加治田

法濃町の岸にけしき 市竹行園
 三島にありき水辺の風景あり
 〰〰〰〰〰〰

六の巻

見尔

誰か山にけしき 市竹行園
 古くも事なりと云ふも事なり
 如くも事なりと云ふも事なり
 はくも事なりと云ふも事なり
 巴山
 権持

あゝ花としらぬはの冷やう

子思文

ほろろのうらみ源一の松

右隣

歌上

梅とて月と強き時の心

巴山

うやうやはやのわらわら

其夕

龍とらぬをいへる

盲人
其語

とちのうらやう

右隣

兼山

信徳の心

雅号行一折

卷二

とちのうらやう

あゝ花としらぬはの冷やう

其語

ほろろのうらみ源一の松

右隣

あゝ花としらぬはの冷やう

其語

ほろろのうらみ源一の松

右隣

一 ぬらうわのえりよほり

既白

あふらふとあふらふの流しとるは

如次

白雲のあふらふとるは

古本

むくたの古煙と雲のそとより

如次

ふの流しとるは

梅城

あふらふとあふらふの流しとるは

如次

白雲のあふらふとるは

古本

名簿

月を同じとるは

瑞河

既の目とるは

系尾

あふらふとあふらふの流しとるは

如次

あふらふとあふらふの流しとるは

古本

あふらふとあふらふの流しとるは

古本

あふらふとあふらふの流しとるは

山本

あふらふとあふらふの流しとるは

山本

あまの川 深き ちの 村の 川

柳 陰

千代子の 花の 影の 影の 影

白 影

花の 影の 影の 影の 影

二 影

山と 花の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

千代 子

花の 影の 影の 影の 影

二 影

風の中 花の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

花の 影の 影の 影の 影

柳 影

神鏡

中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

その間中世主権の移行時

五丁道北極の多岐の柳多
 奇な
 らぬ名の結るる年。牡丹也
 未研
 移ぬやゆくのよまをその瘡
 有柳
 不とていふをたてしり
 名石
 雲霧をかたむかす月を
 空自

釜戸

さるるものに似たり
 石と

白冠

ちや先青ちやをちやと所記
 成塔
 ちや海の月のちや
 路離
 堀川のちやと帳のちや
 路離
 ちやちやちやちやちや
 兼資
 ちやちやちやちやちや
 延延
 ちやちやちやちやちや
 延延
 ちやちやちやちやちや
 延延

名録

梅より早北財布とゆはるる
 新の意ゆ 斗くと 忠直 李喜
 又更のゆくと 新の白 菊柑
 小原の團とゆはるる 文香
 ちとゆはるる ちとゆはるる 香印
 ふれゆはるる ちとゆはるる 花田

名録

高きゆはるる ちとゆはるる 芳洲
 山ゆはるる ちとゆはるる 作し
 人ゆはるる のく 格とゆはるる 江左
 月おゆはるる ちとゆはるる 李喜
 高きゆはるる ちとゆはるる 李喜
 高きゆはるる ちとゆはるる 雨後
 高きゆはるる ちとゆはるる 李喜
 ちとゆはるる のゆはるる 李喜
 ちとゆはるる のゆはるる 李喜

似やうなる浮きくはなぬやえ
 意しんかひおほくや年のと
 看むらやふくはなぬやえ
 ちんちん碎りて中り花は赤
 杜若

明知

後行一也

里は

まじりておほくはなぬやえ

ちんちん碎りて中り花は赤
 似やうなる浮きくはなぬやえ
 意しんかひおほくや年のと
 看むらやふくはなぬやえ
 ちんちん碎りて中り花は赤
 杜若

木と竹の中とすくく夕暮
 雲
 雲よ霞よかきかきくふも雲
 木竹
 木一木とくくく行雲
 雲

名録

鶴はや蜂のふかふか
 木竹
 木竹のふかふか
 木竹
 木竹と木竹のふかふか
 木竹

木のおもふふふふふふ
 木竹
 正白くくくくくく柳の
 木竹
 子と女の泣や白無子月
 木竹
 花を子や木竹くくくく
 木竹
 木竹のふかふか
 木竹
 木竹のふかふか
 木竹
 木竹のふかふか
 木竹

中津川

五月廿五日 花と実多うの 香松屋の
あけし 花や 海一 ちり ちり ちり
ねんじり ちり ねんじり ちり ねんじり

八白書

菅園

ねんじり ちり ねんじり ちり ねんじり
陽と ちり ちり ちり ちり ちり
ちり ちり ちり ちり ちり ちり
ちり ちり ちり ちり ちり ちり
里仲

ちり ちり ちり ちり ちり ちり 十八

ちり ちり ちり ちり ちり ちり 亀六

ちり ちり ちり ちり ちり ちり 羽紅

ちり ちり ちり ちり ちり ちり 柳二

ちり ちり ちり ちり ちり ちり 柳六

名簿

ちり ちり ちり ちり ちり ちり 菅園

いかにしるすかたの月を記す 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

名塚

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくち

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくち

あふれくちもあふれくち 巻五

あふれくちもあふれくち 巻五

馬佛

和名

和名

和名

名簿

和名

和名

他田

和名

和名

和名

和名

和名

和名



然
也

然
也

